

アコヤガイモニタリング調査結果

(調査日：令和3年7月21日)

愛媛県農林水産研究所水産研究センター

1 調査結果の概要

- ・栄養の蓄積状態を示す貝柱のグリコーゲン含量は、概して減少低下傾向にあり、健康度の指標となる3.0%を下回るものが多かった。また、すべての漁場で、昨年同月より少な目である。
- ・貝殻真珠層の褐変個体の出現率は、前月より低下した。
- ・貝柱のa値は、上昇傾向にあるものの、赤変個体は確認されなかった。
- ・水温は、前月の調査以降、急潮の流入によると考えられる4℃以上の上昇が2回確認され、現在も平年より1℃以上高めで推移している。

産卵による体力低下と急潮による急な水温変動により、貝の状態が悪化する懸念がありますので、貝の管理にはこれまで以上にご注意ください。

2 調査結果一覧

漁場*1	貝の種類 (R2産)	グリコーゲン含量 平均値 (%)	a値 平均値	赤変個体 (個)	褐変個体 出現率
北部	日中交雑貝*2	3.0(3.3)	0.8(-1.0)	0	0%
中部①	日中交雑貝	2.4(7.0)	1.2(-0.8)	0	10%
中部②	日中交雑貝	3.7(4.5)	0.1(-0.9)	0	5%
南部	日本貝	1.1(4.0)	1.6(-0.1)	0	5%
南部	日中交雑貝	2.8(5.5)	1.0(-0.3)	0	15%
平均値		2.6(4.9)	0.9(-0.6)		

*1 漁場： 北部：三浦半島以北 中部：由良半島から三浦半島 南部：由良半島以南

*2 日中交雑貝：日本貝と中国貝の交雑貝

() 内は昨年同月の値

3 調査方法

- ・4月から11月まで月1回（概ね第3週）、各漁場・種類毎に20個を調査。
- ・愛媛県漁業協同組合宇和島事業部が、調査日2日前を目処に上記漁場で採取して持ち込んだアコヤガイ母貝（2年貝）をサンプルとした。

4 調査項目および判断指標

- ・グリコーゲン含量 (%)：アコヤガイの栄養蓄積状態を示す指標で、数値が高いほど良好。
- ・a値：閉殻筋（貝柱）の赤色度を示す指標で、数値が高いほど赤みが強い。
赤みを帯びた黄色で3、明らかな赤色で5以上。